

苦しい・楽しい・娯楽？ “差し石勝負”

休日や雨に降られ、体力を

もてあましている！という方に、今月は体力を要する娯楽を取り上げてみたいと思います。

戦前から戦後の一時期にかけて、西原町内の各部落には、青年達の娯楽の一つに、差し石勝負というのがありました。差し石勝負とは、石（ほとんどがニービスフニ）を、頭上に持ち上げて力を競うものです。

娯楽の少なかった昔は、仕事の終わった夕暮れ時に青年達が集まり、差し石でもって力勝負をするのが楽しみの一つでもありました。差し石は部落の集会所や四辻にいくつか置いてあって、軽いもので約四十斤（二十四キロ）から、重いものは約百八十五斤（百一十キロ）まであり、たいがい持ちどころのない丸い石で、持ち上げるには力ばかりでなく要領を必要としたよう

です。

地域によっては、大石を大地にたたき落とす振動で魔物払いをする所や、振動を与えることで五穀豊穡を祈願する地域もあり、その目的には、興味深い所があるといえます。

また、考古学的にさかのぼってみると、沖縄貝塚時代の遺跡から、断面が卵形をした大型の石器（磨石）が出土し

ていて、それを差し石と結びつけて考えると…そのルートには太古のロマンが感じられそうです。

戦前、町内には五十数個の差し石があったようですが、現在確認できたのは幸地部落の三個だけでした。

ひょっとして、町内のどこかにひっそりところがあるのかもかもしれませんね。

しかし、百八十五斤の石を持ち上げるなんて…。現代の若者のみなさん、「娯楽」とはなんぞや？



3. 肩にのせる



1. 横にする



4. 頭上に持ち上げる



2. ひざにのせる